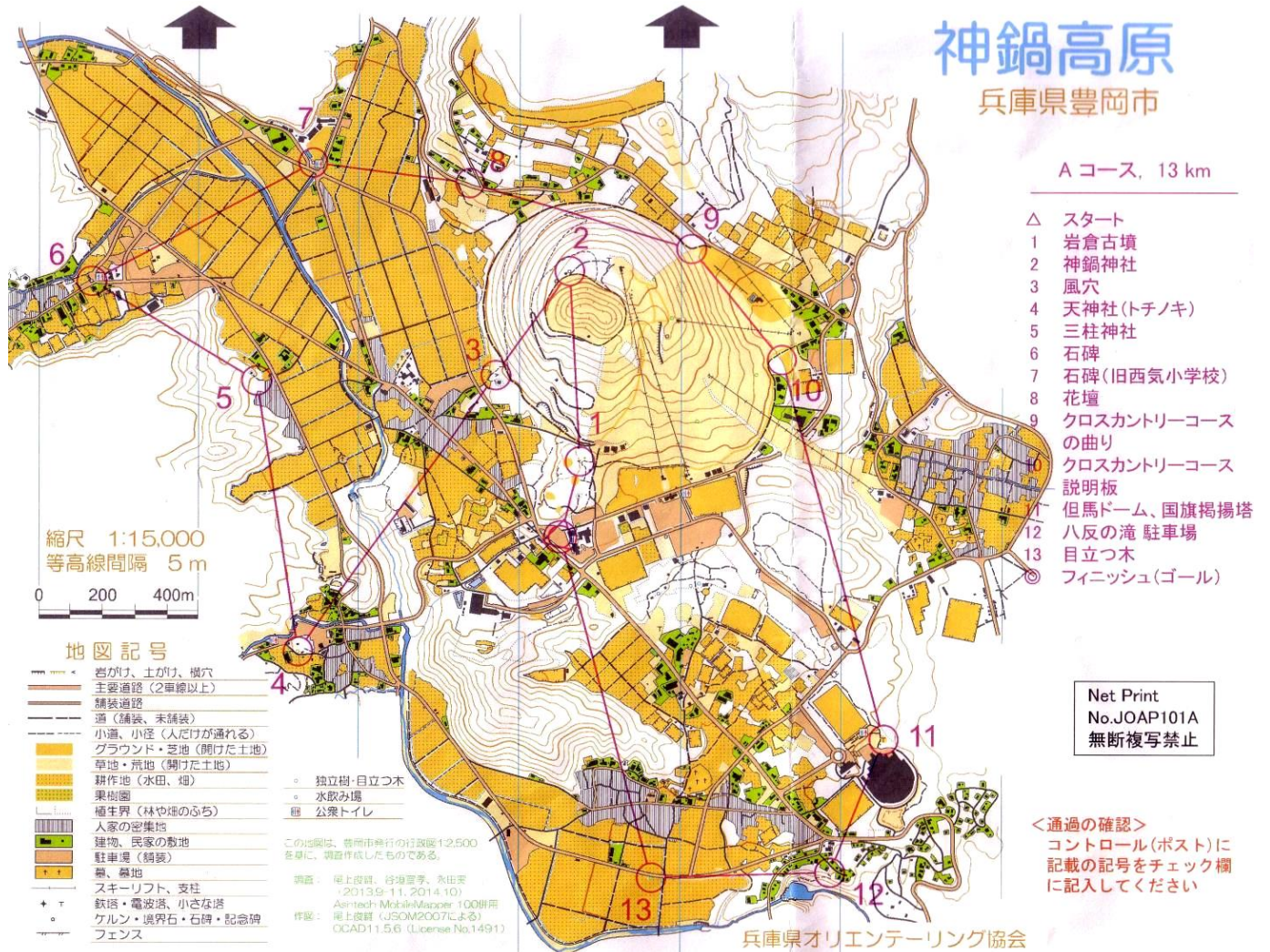


パーマナント
コース情報

回り応え充分。骨太コース

「神鍋高原A」コース

大高竜亮



兵庫県但馬地区に設置されている神鍋高原コースがネットプリントに対応。同時にABCの3コースにリニューアルされるという、PCファンにはうれしいニュースでした。

「神鍋高原A」コース 兵庫県 No.11
JOA 公認 No.101 13km 13 ポスト

骨太コースにリニューアル

昭和46年登録申請という古い歴史があるものの、交通の便も決してよいわけではない条件を考えると、こうしてまた新たな歴史を刻み始めたことは奇跡にも思えます。

コースはスキー場も含むエリアで冬季は降雪のため閉鎖となるのですが、

この冬の暖冬で12月に入ったこの日も、晩秋のような雰囲気の中コースを楽しむことができました。

変更前のコースは1998年9月に訪れています。山間を縫う平坦なコース設定で、夏から秋に向かう高原を気軽に歩いた記憶が残っています。

コースが新しくなると、より易しい設定になりがちですが、ここは難易度を多様化。経験者に向けては距離も13kmと延長し、これまでは避けてきた神鍋山には3コースいずれも登頂するという骨太な更新になっています。

ABCコースは各々独立した設定ではなく、Aコース(健脚向け)をめぐる、設置されている全ポストを回ることになり、Bコース(一般向け)はAコースの第10ポストまでで終了。Cコース(神鍋山コース)はAコースの5つのポストをつないでいます。私はAコースに挑戦です。

ネットプリントに対応

予め地元のセブンイレブンのネットプリントで出力しておいた地図を持参します。ABコースは1:15,000、Cコースは1:10,000の縮尺の地図が使用されています。私が現地ですぐに入手できたのはABコースと一緒に印刷されたもののみで、Cコースは扱えないという返答でした。

福知山で前日借りたレンタカーに乗って、宿泊地の豊岡駅前から神鍋高原を目指します。計画段階ではこの日の天候は思わしくなく、雪も懸念されましたが、当日は曇天ながら小雪のちらつきもなく一安心。豊岡から20kmほどのところにある道の駅神鍋高原がスタート地点で、敷地内の日高神鍋観光協会が地図の扱いがあります。オープン前の到着でしたので、帰りに立ち寄ることとして、ネットプリントの地図を

片手に踏破開始です。



いきなり神鍋山

正面に神鍋山を仰ぎ見ながらスキー場に隣接した道を進むと、左手の草むら越しにポストが早くも見えてきます。更新のタイミングで、兵庫県では近頃よく目にする平板のポストに置き換わったのではと心配していましたが、前回と同じ仕様の立派なポストのままです。うれしいことに汚れ1つない新品で、コースへの期待感が一気に高まります。ポストの横に顔を覗かせている岩倉古墳群の横穴式石室は、出土品から7世紀初頭のものだと推察されているそうです。

第2ポストはいきなりハイライトの神鍋山山頂。舗装された道が蛇行しながら緩やかに導いてくれるため、歩き始めて間もない時間でも息があがることはありません。別名、神鍋火山と呼ばれるだけあり、山頂部は周囲750m、深さ40mというすり鉢状に大きく陥没し、噴火口の姿をそのまま留めています。かつてのコースでは目にすることのなかった自然景観を存分に目に焼きつけ、お鉢めぐりの北端へ。そこには溶岩をピラミッド状に積み上げた神鍋神社があり、横にポストが行んでいます。鳥居もなく、とてもユニークな神社ですが、何をお祀りするために建てたものか知りたいところです。



神鍋神社

第3ポストへ向けて早くも山から下ります。目指すは風穴であることがネットプリントのポスト位置に明記されているため、小道の分岐に立つ道標が回答になっています。このコースでは唯一の山道らしいルートは整備も行き届いて快適です。山を下りきると溶岩洞穴である風穴に到達します。昭和20

年ころは種子の貯蔵庫として使用されていたようですが、現在は安全面を考慮して立ち入り禁止になっています。大きな柿の木を背景に立つ第3ポストを確認し、神鍋山を後にします。

このあともたわわに実をつけた柿の木が随所に見え、寒冷地の12月ながら見渡す景色はまだ秋模様。本来主役になっているはずのスキー場の看板が肩透かしを食らっているかのようです。トチノキの巨木のある天神社が第4ポスト。樹高30mという大トチノキは県指定の天然記念物で、県内随一の高さを誇っています。

続く第5ポストも神社の境内。三柱神社という無人の社は以前のコースの第2ポストと同じところ。ポストもそのまま使われていて、風格を感じさせます。

16種類の苗を植えて田んぼアートなるものを実験中という縞模様の田んぼを横目に確認しながら向かう先は、スキー場を擁する奥神鍋エリア。降雪を心待ちにするなか、一部のグレンデには人工雪が敷き詰められ、この日もスキーヤーの姿が早くも見られます。三叉路にある小さな地藏堂の横にある第6ポストはこれも旧コースからの継承ポスト。今も毅然と直立しています。

東に折り返し、広々とした平野が広がる区間を進みます。リフトの支柱を移設した奥神鍋の案内看板を右手に眺め、ほどなく学校が見えてきます。西気小学校というその学校、2015年3月をもって閉校となり、明治7年からの130年あまりの歴史を終えています。トイレと石碑の間にあるポストを確認して、神鍋山の北麓に向かいます。

学校沿いを北に向かい、右折して緩やかに登っていく道路を目指します。ロマンスロードと名づけられたこの道路を左カーブで登っていくと、道端にあからさまに立つポストが現れるのですが、一瞬「？」が浮かびます。ネットプリントで記されているポスト位置よりも手前にあることがその訳で、明らかな記載ミスと思われる。古いポストで頭が破損していたのも少々残念。

東に進むと神鍋山が迫ってきます。山裾にはクロスカントリーのコースが整備されていて、オリエンテーリングもこのコースを経由します。砂地に芝生を横断歩道のように敷き詰めた道で、足への負担がとて少ない工夫が施されています。スキー場が目の前に開けると同時に第9ポストも目に飛び込めます。雪のないスキー場ではパラグライダーを楽しむ多くの人たちの姿

があり、上空には気持ちよさそうに空の散歩を楽しむグライダーが幾機も浮かんでいます。

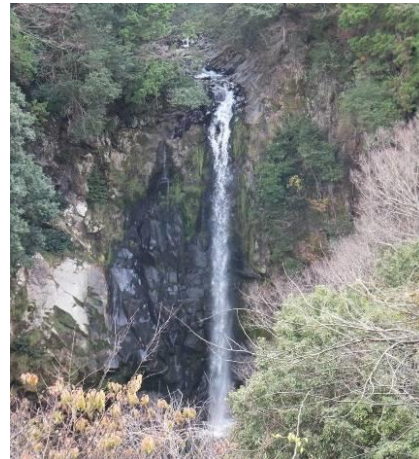
スキー場をまっすぐ横切ると、第10ポストははるか手前から確認することが可能です。Bコースはここで終了してゴールへ向かい、Aコースは旧コースでは回る事のなかった南のエリアに向かいます。

コース最長区間を経て到達した先はSFにも出てきそうな要塞にも見える圧倒的な存在感をもつ建造物。但馬ドームと呼ばれる全天候型のスポーツ施設で、この時は野球の試合が行われていました。雪に閉ざされるシーズンでも、野外と同様にスポーツが楽しめる施設は地域に暮らす方々の健康的なライフスタイルの支援にとって欠かせない存在なのでしょう。第11ポストは国旗掲揚塔の横に設置されています。



但馬ドーム

ドームをぐるりと回り込んで西に向かい、第12ポストは八反の滝を望む段丘の上にあります。滝壺まで降りなくても、落差24mという滝の全容を望める好立地です。



八反の滝

最終ポストはこのコース最南端。道端の独立樹に寄り添うように立っています。テニスコートの間を抜けて道路をゆるやかに登っていくと、道の駅に帰り着きます。回りごたえ満点の3時間21分でした。

新コースに生まれ変わってはじめての春を間もなく迎えます。

(2015年12月6日 踏破)
(大高竜亮)